「子ども時代に自殺で親やきょうだいを亡くした私たちの声 ～全国自死遺児500人調査～」概要と中間報告

令和7(2025)年9月16日

岡山県立大学 保健福祉学部 現代福祉学科 准教授
京都大学 医学研究科 客員研究員
大倉 高志

本日の報告内容

①日本における自殺の現状と社会的背景

②調査の概要

③中間報告

①日本における自殺の現状と社会的背景

- ２０２４年の自殺者数は、２万３２０人でした
- 小中高生は、５２９人と増加傾向にある

（厚生労働省・警察庁「令和6年中における自殺の状況」）

⇒　きょうだいを自殺で亡くした遺児が増えている可能性がある

自殺で家族を亡くした遺児の数が正確に把握されていない

〇自死遺児は何人いるのか？

・副田（2002）は、1999年に存在する自死遺児の推計値は、父親を自死で亡くした遺児は約63,700人、母親を自死で亡くした遺児は約26,500人で、合計90,200人であると説明している

・自殺で家族を亡くした遺児は、語りにくさや孤立、社会の偏見・差別、無関心、日本固有の文化的背景などの二重三重の困難を抱えている可能性がある

子ども期の逆境体験がその後の人生に影響を及ぼす可能性が指摘されている

- 18歳になるまでに虐待・ネグレクトや家庭の機能障害にさらされた体験のことを逆境的小児期体験（Adverse Childhood Experiences：ACE）と呼び、小児期における逆境的体験が成人期以降の健康問題と明らかに関連するという指摘がある（三谷2022（日本自殺予防学会総会シンポジウム））

- 子どもは現場から遠ざけているから影響を受けていないだろうと考えられがちであるが、子ども特有の影響を受けている現実があることに私たちは目を向ける必要がある

②調査の概要
0～19歳の時期に自殺で親やきょうだいを亡くした子どもに焦点を絞った全国調査

①量的研究によるオンラインのアンケート調査

- クラウドファンディングによって得られた資金を活用
- 2024年夏に研究を開始。2025年4月にGoogleフォームによるアンケート調査を開始。500名の方々の回答を収集予定

②質的研究によるオンラインのインタビュー調査

- インタビューに応じてもよいという回答者の中から50名にインタビュー調査を依頼する対象者を選定

本調査の主な研究課題

研究課題①

遺された親や家族から、子どもへの自殺の事実や死因などの望ましい伝え方

研究課題②

遺された親や家族から、子どもへの家族の遺体の望ましい対面のさせ方

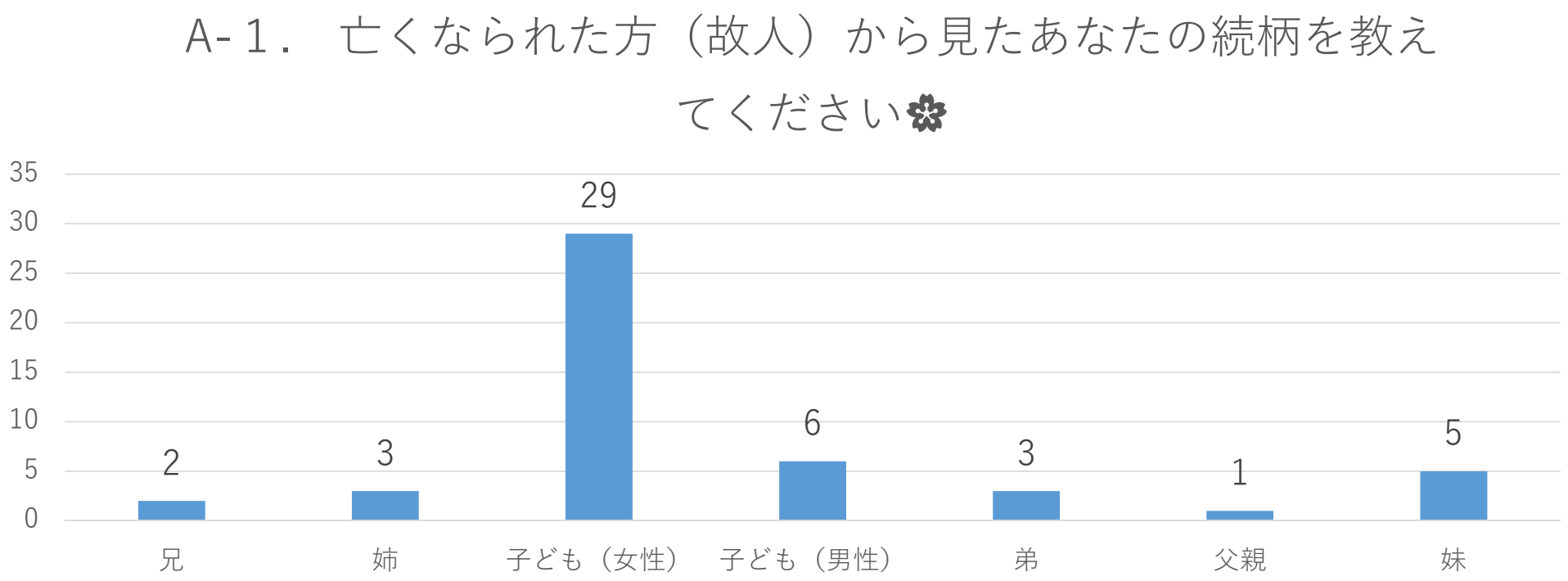
研究課題③

親や家族の自殺現場に遭遇し目撃してしまった子どもへの望ましい支援のあり方

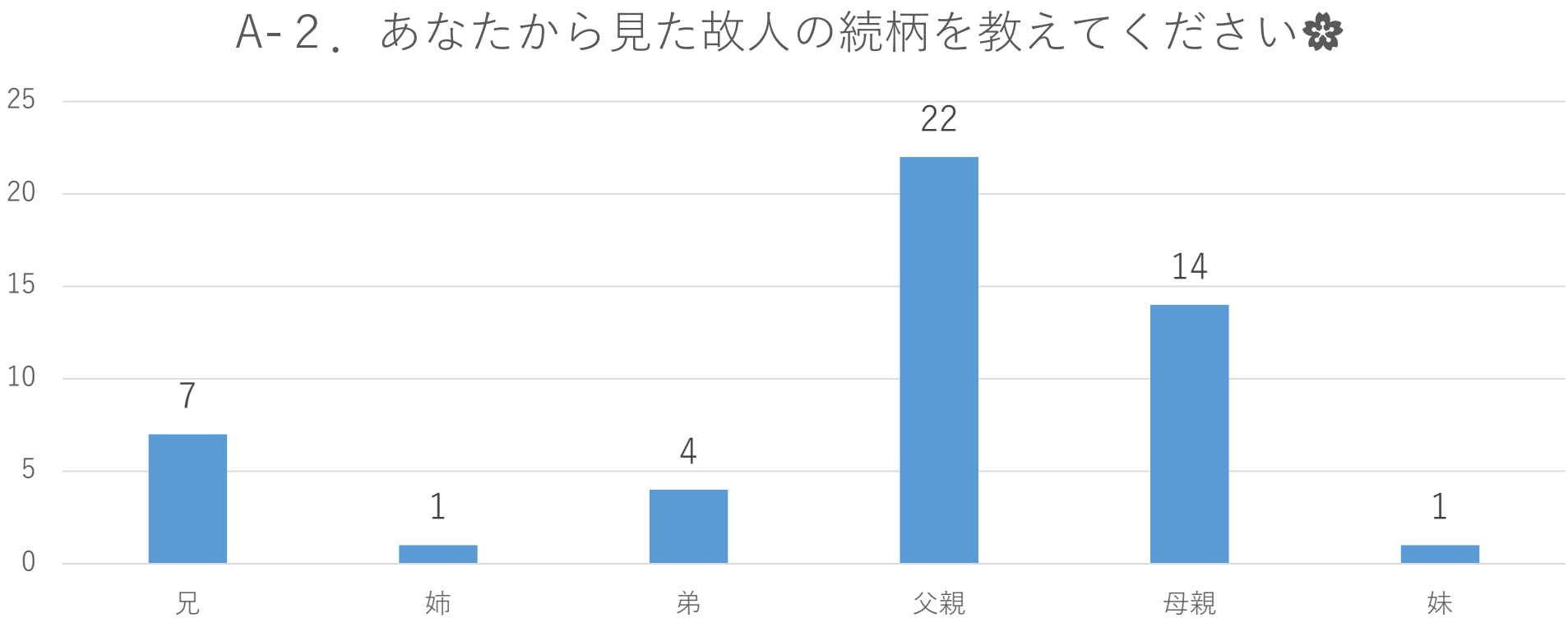
⇒　以上のほか、

- 自殺による死別後に遺児へのサポートが届いていない現状
- 子どもにとって自殺がどのような影響を及ぼしたかという実態を明らかにし「自殺で遺された子どもへの支援方法」を提示

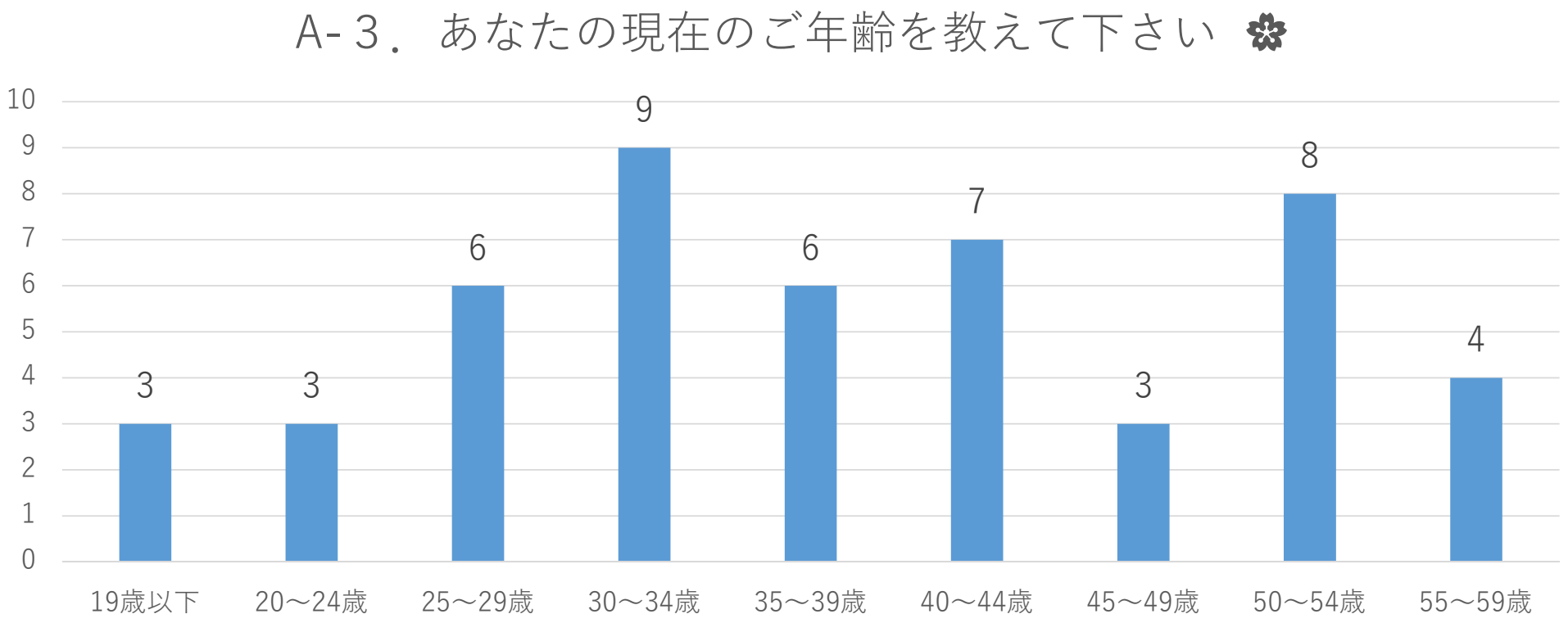
③全国調査の中間報告 (2025年9月10日までの49人の回答を集計)



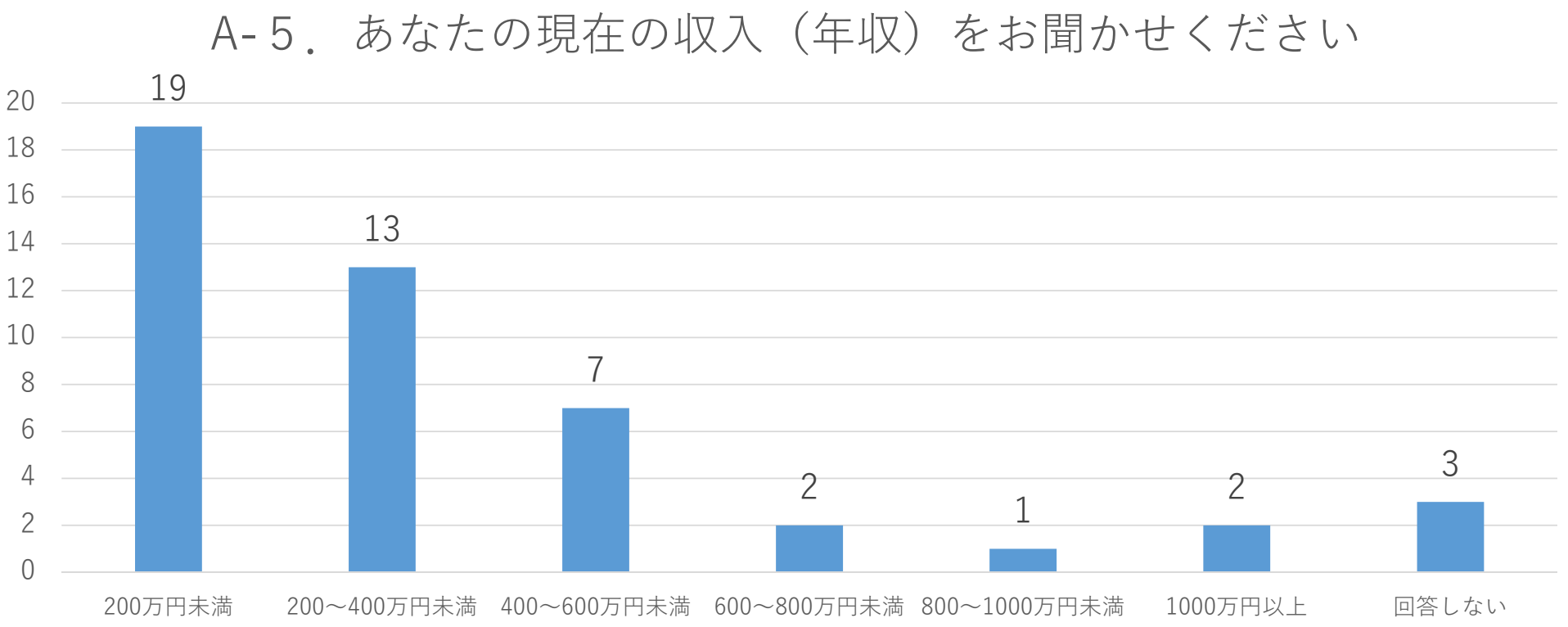
子ども（女性）が29人と最も多い。次いで、子ども（男性）が6人であった。親を亡くした回答者が35人、きょうだいを亡くした回答者が13人であった。



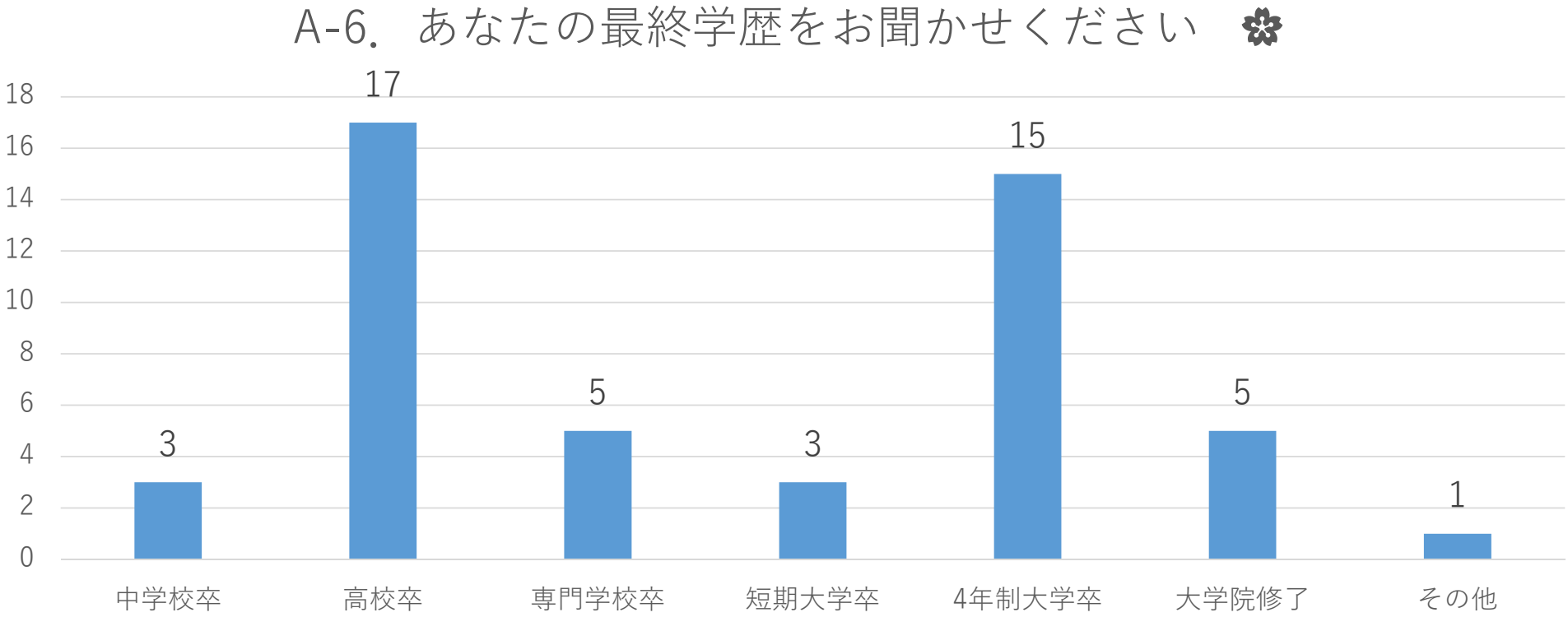
父親が22人、母親が14人であり、親を亡くした人は36人(73.4%)であった。きょうだいは13人(26.5%)であった。



30~34歳が9人と最も多い。次いで、50~54歳が8人であった。
60代以上の回答者からの回答が得られていない。

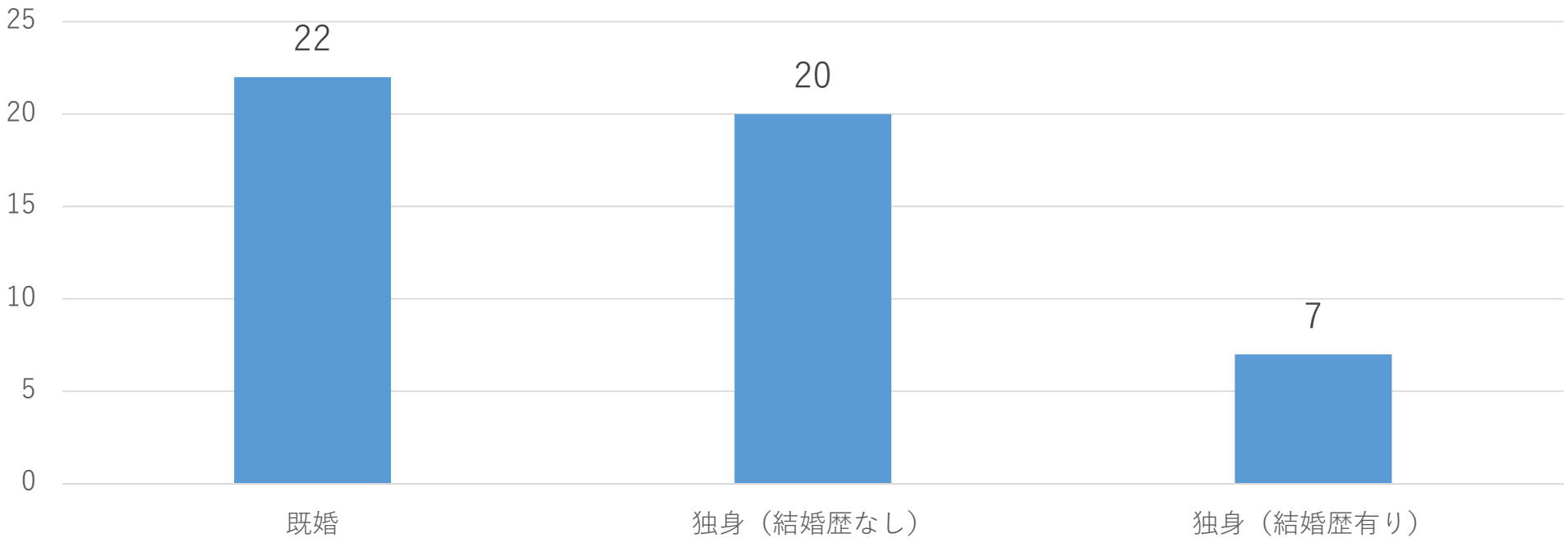


年収200万円未満が19人と最も多い。次いで、200~400万円未満が13人であった。



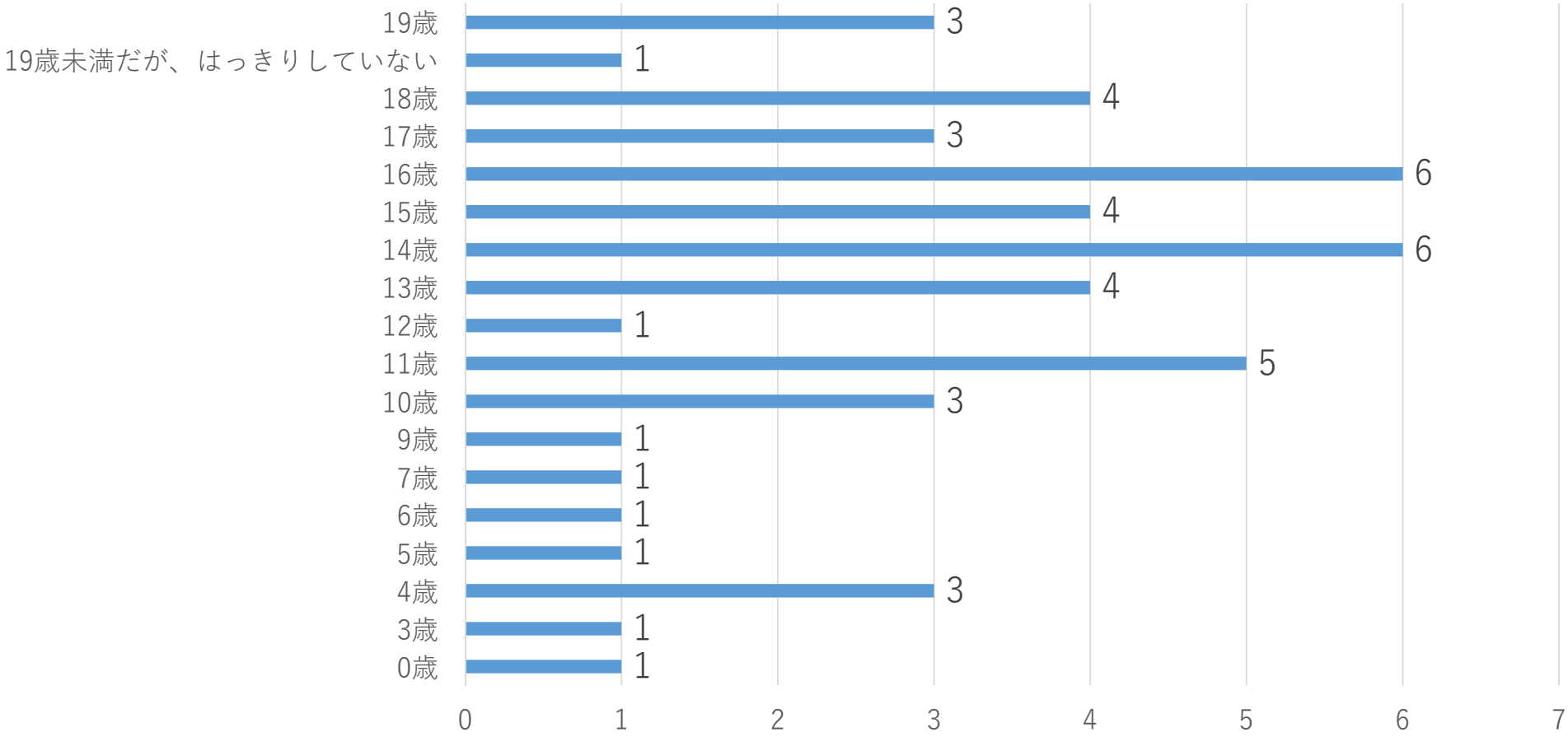
高校卒が17人と最も多い。次いで、4年生大学卒が15人であった。
中学校卒・短期大学卒どちらも3人と最も少なかった。

A-７．あなたの現在の婚姻状況をお聞かせください ❁



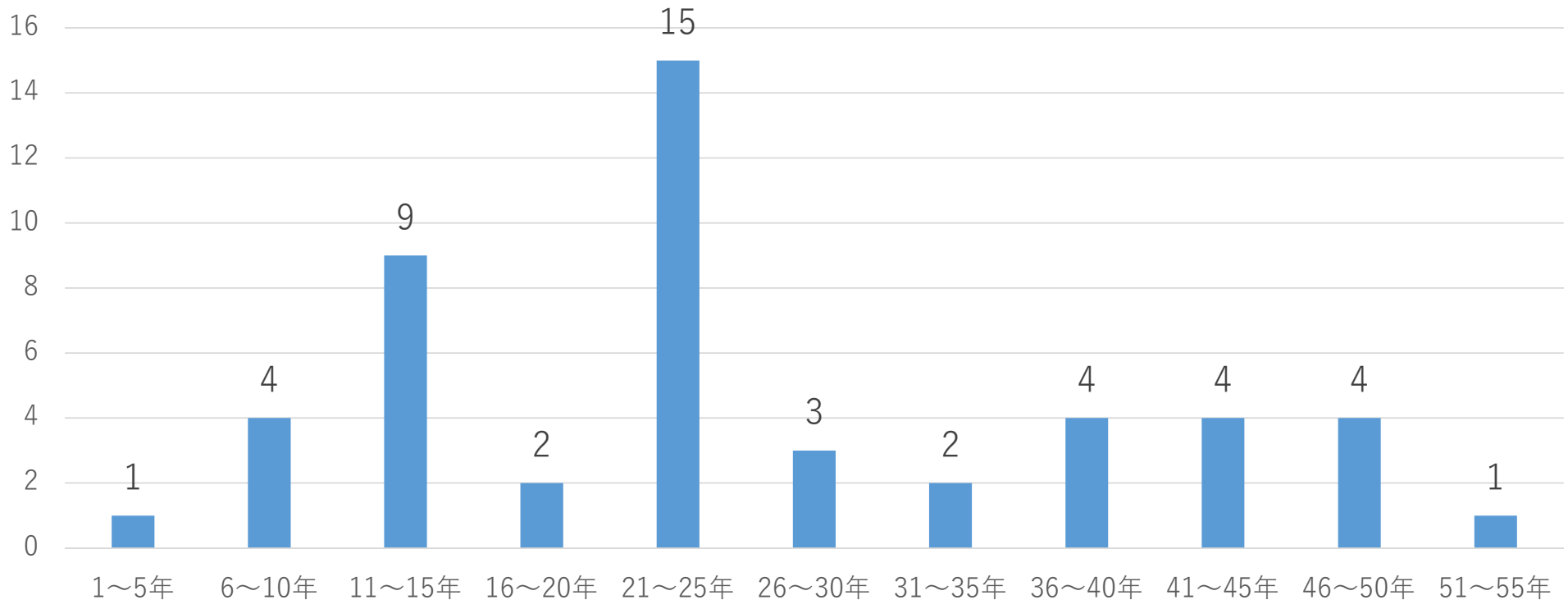
既婚が22人と最も多い。独身（結婚歴有り）が7人と最も少なかった。

A-８．死別時のあなたのご年齢をお聞かせ下さい ❁



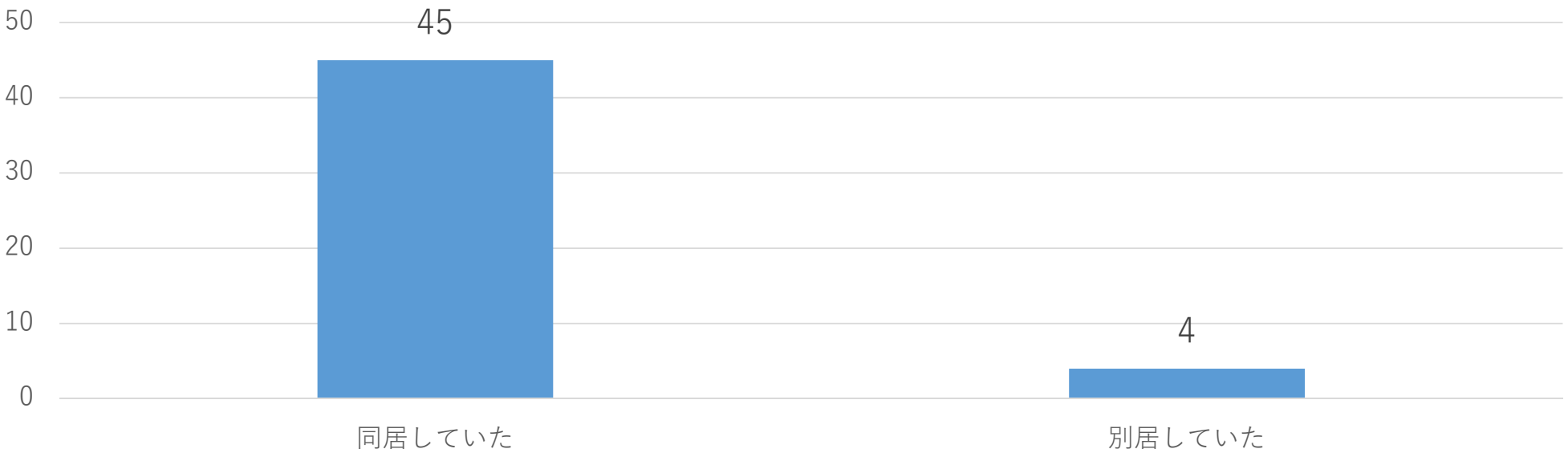
14歳、16歳がどちらも6人と最も多い。次いで、11歳が5人であった。

A-９．死別からの経過年数をお聞かせください ❁



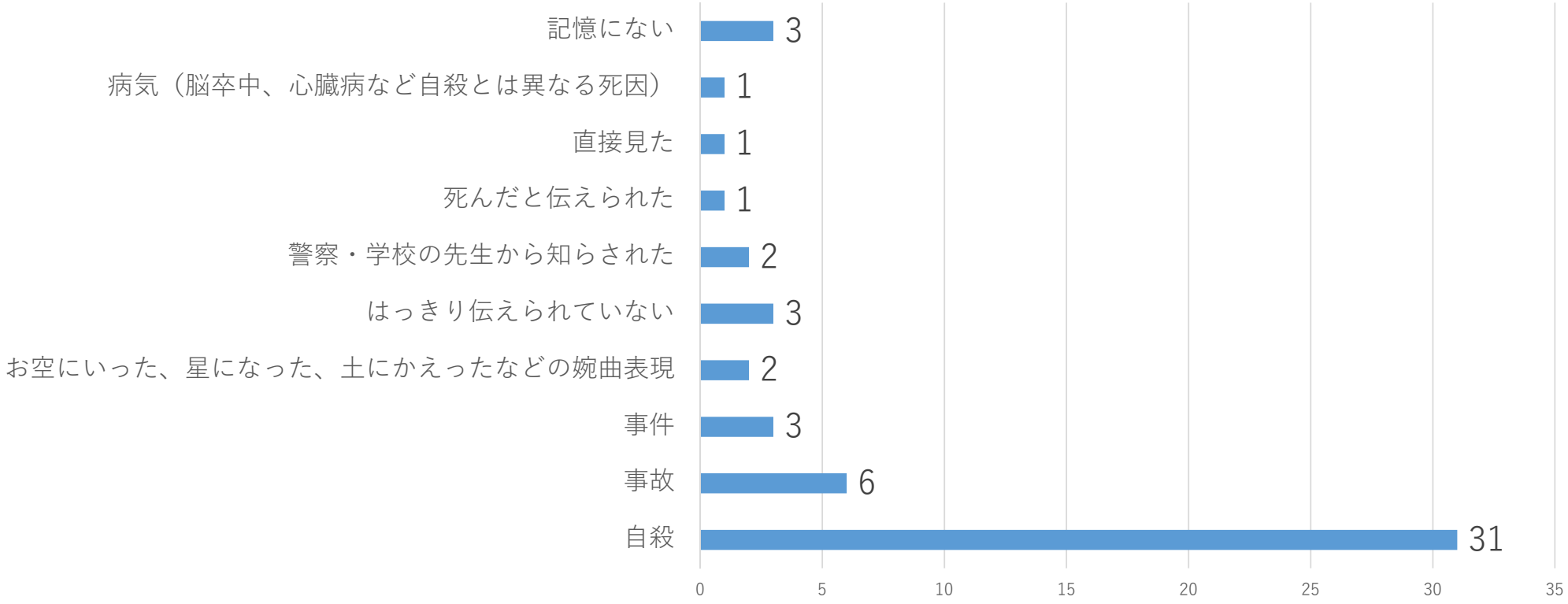
21~25年が15人と最も多い。次いで、11~15年が9人であった。
1~5年、51~55年が1人ずつであった。

A-１０．死別時にあなたと亡くなられた方との同居、別居の状況を教えてください🌸



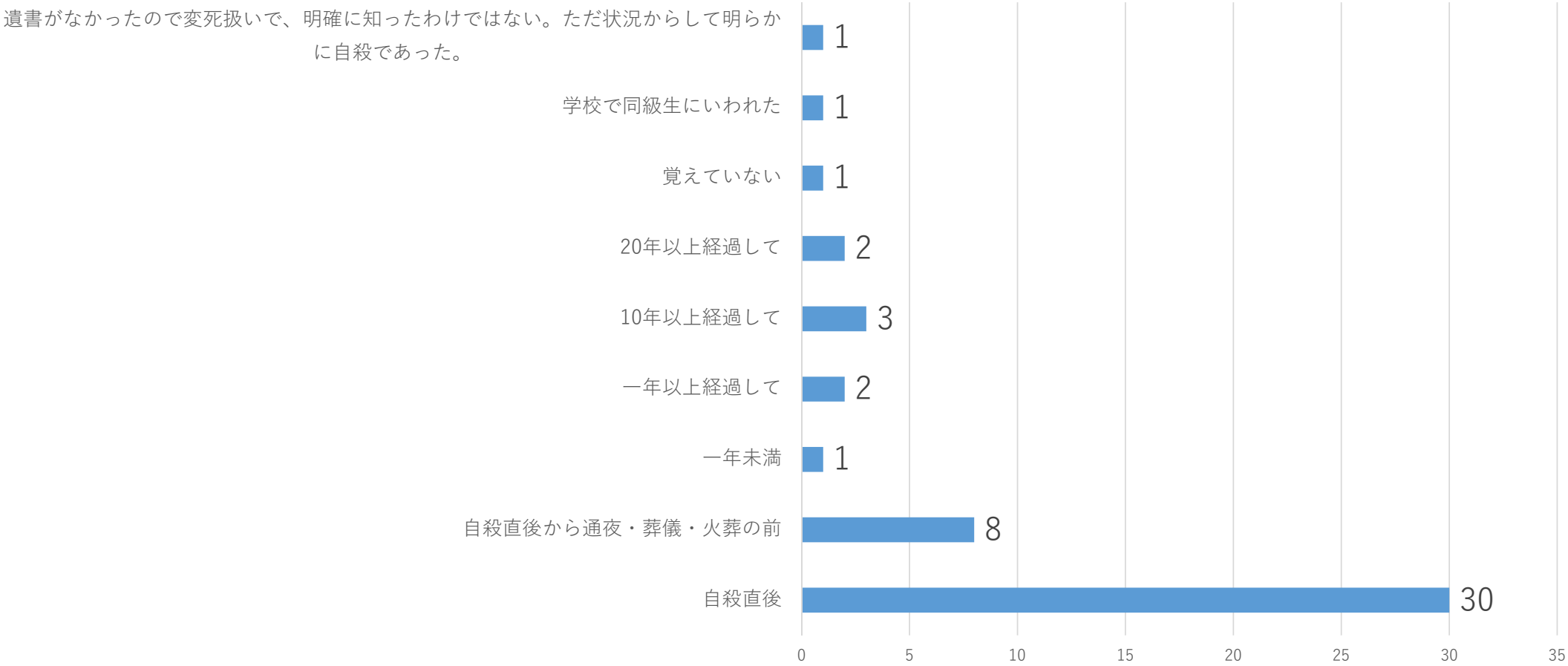
故人と同居していた回答者が45人であり、別居していた回答者よりも大幅に多かった。

B-６．最初に故人の死についてどのように知らされましたか？
（あてはまるものすべてに✔を）❁



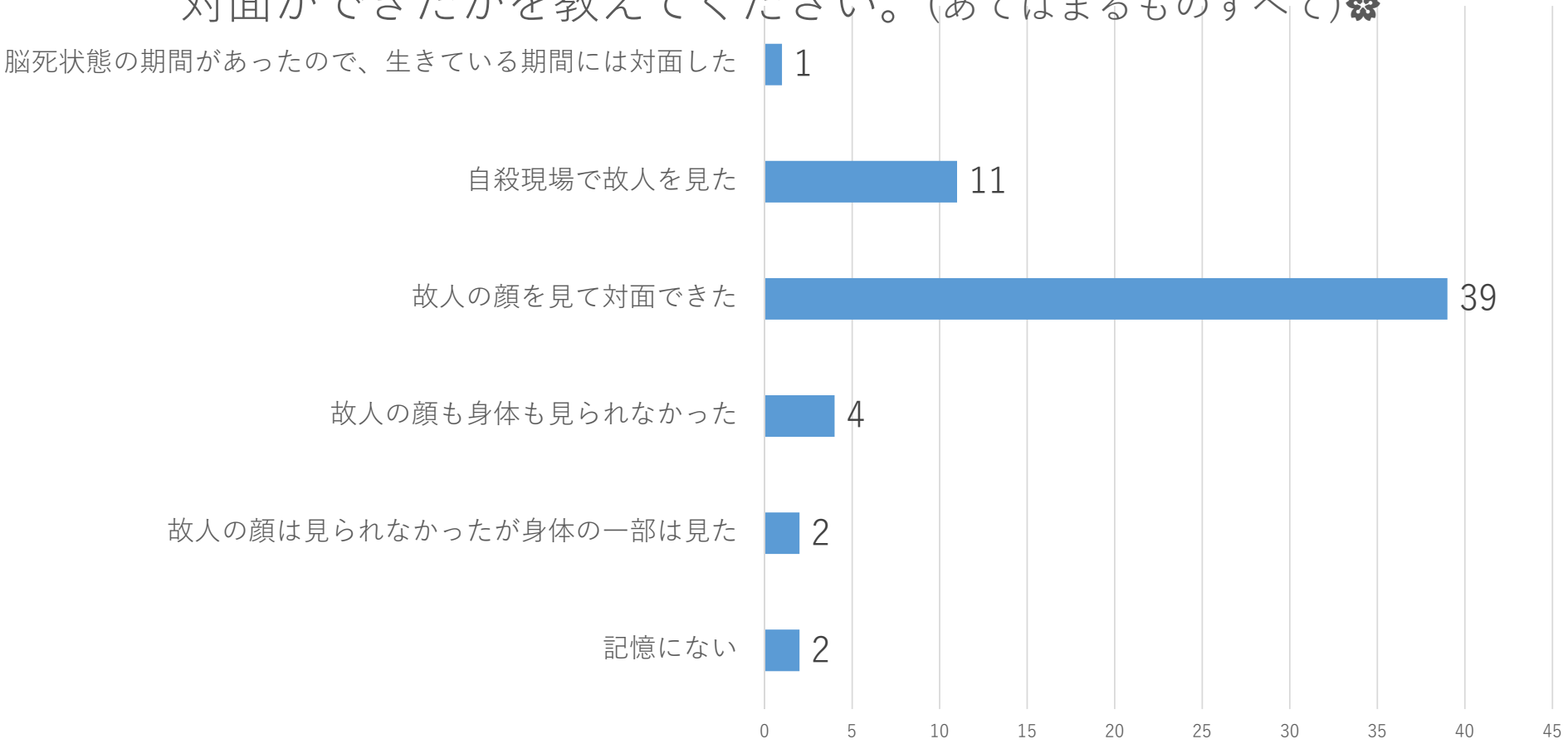
自殺が31人と最も多い。自殺とは異なる死因が1人、婉曲表現が2人、記憶にない人が3人だった。

B-７．自殺という死因について「いつ」知りましたか？

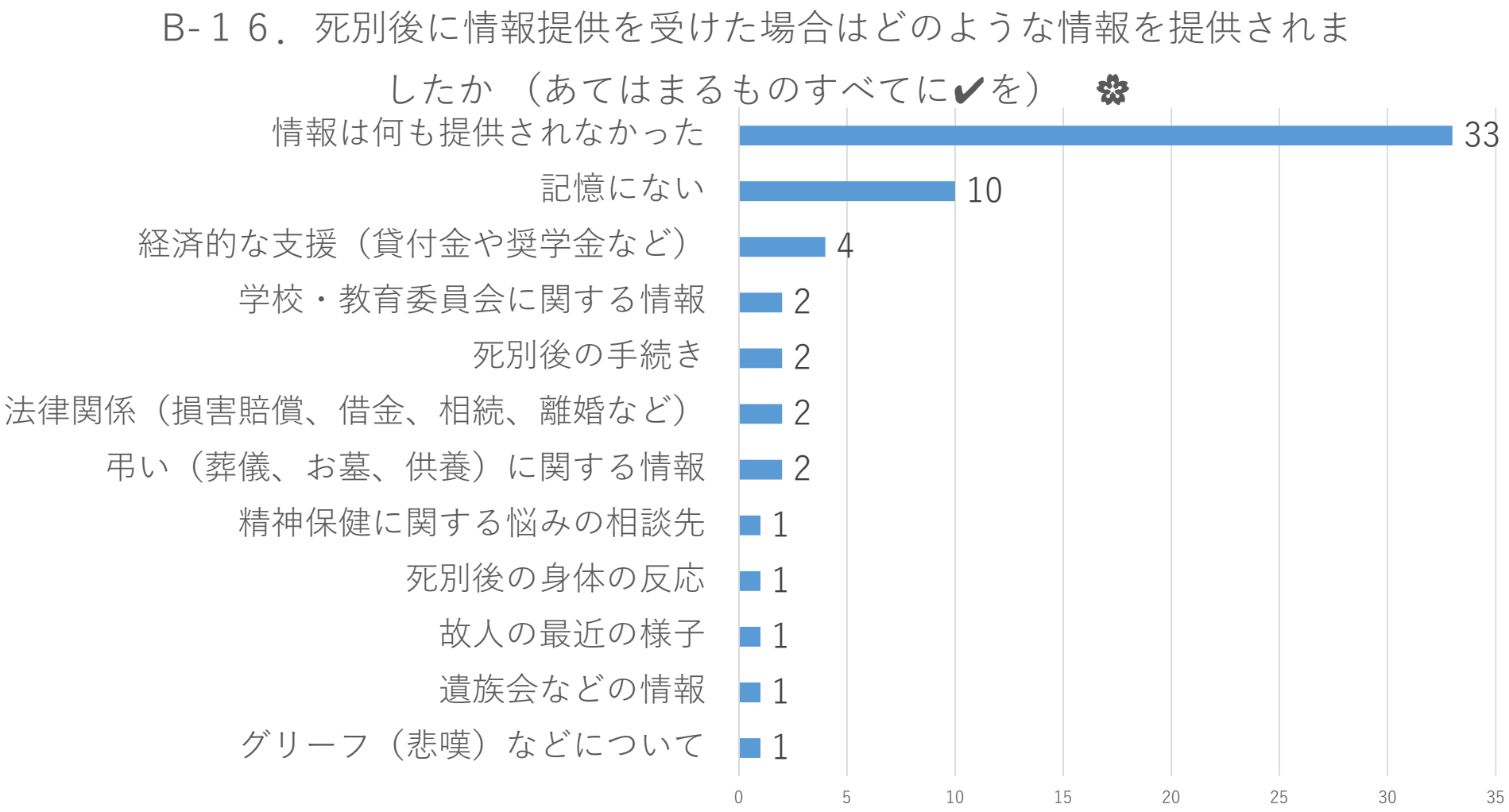


自殺直後が30人と最も多い。次いで、自殺直後から通夜・葬儀・火葬の前が8人であった。

B- １４．自殺発生直後から火葬までの間に故人と一度でも対面ができたかを教えてください。(あてはまるものすべて)✿

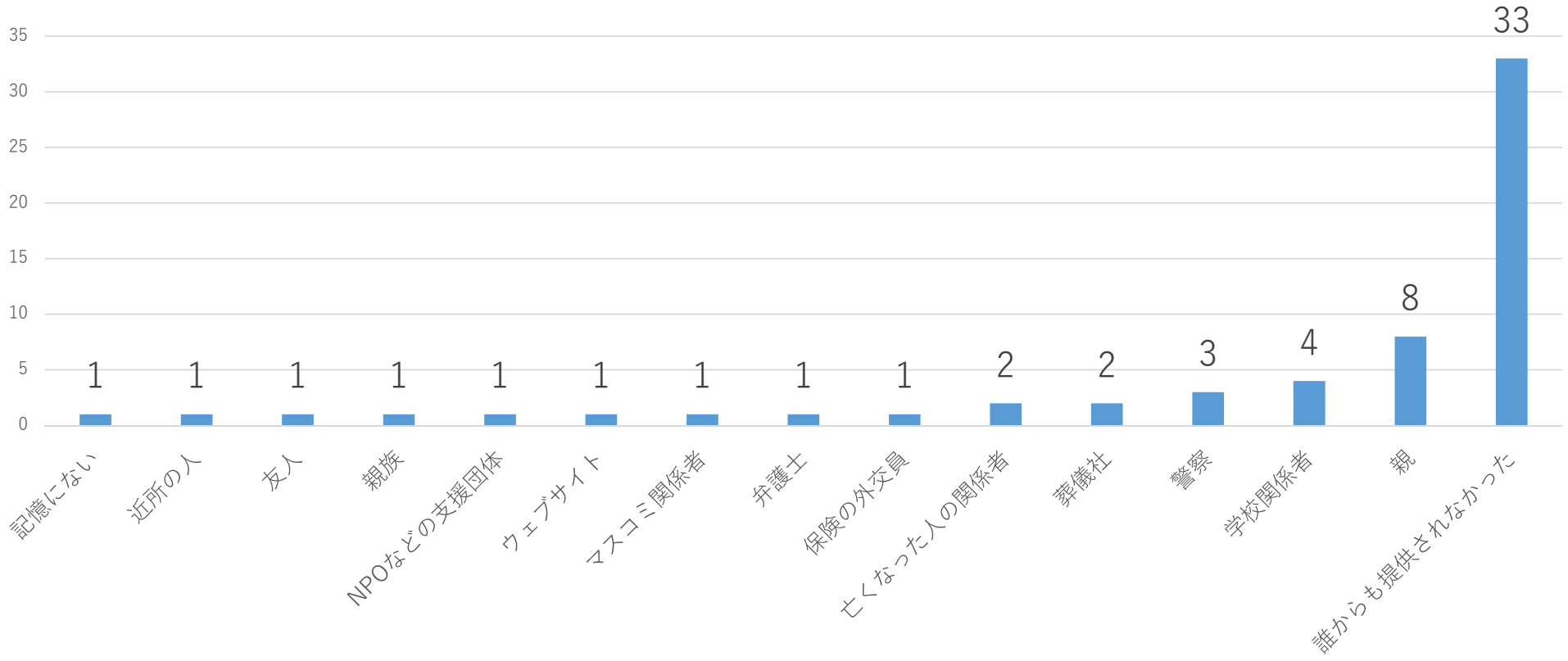


故人の顔を見て対面できた人が39人と多い。次いで、自殺現場で故人を見た人が11人、顔も身体も見られなかった人が4人だった。



情報は何も提供されなかったが33人(67.3％)と多い。次いで、記憶にないが10人だった。

B-１７．上記の死別後の情報は誰から提供されましたか
（あてはまるものすべてに✔を）❁



誰からも提供されなかったが33人(67.3%)と多い。次いで、親が8人、学校関係者が4人だった。